

千葉東部地区出荷組合連合会人参部会の産地維持への取組

— 新規栽培者の部会加入への誘導と支援体制 —

1 活動のねらい

JA 千葉みらい千葉東部地区出荷組合連合会人参部会は、国の野菜指定産地の一翼を担う秋冬にんじん産地ですが、高齢化に伴う担い手の減少により産地維持が危ぶまれています。

そこで、人参部会の栽培面積を維持することを目的に市、JA等の関係機関と連携して新規栽培者を掘起し・育成を進めました。

2 課題の背景

千葉市若葉区を中心とした人参部会は60戸、栽培面積は約40haであり、秋冬にんじんがJAの全販売金額の約7割を占め、重要品目となっています。

しかし、収量が低いほ場が散見されていたため、平成27～30年度にかけて土壌診断に基づく施肥改善、地力増進を目的とした堆肥や緑肥の利活用を進め、単収増加のための技術指導を実施してきました。

一方で、栽培面積を維持するため、関係機関が連携して新規栽培者を部会加入へと誘導し、産地の担い手として育成していく方針を平成29年1月に関係機関で協議し、決めました。

3 普及活動の経過・結果

(1) 活動経過

ア 新規栽培者の部会加入への誘導の取組

地域内で既に秋冬にんじんを栽培している部会未加入者は個選出荷や直売主体でしたが、農業事務所から共選での市場出荷に経営方針を転換することで、出荷作業の省力化により規模拡大が図れること、栽培講習会や査定会を通じて情報収集し、他の部会員と情報交換できる等の部会加入のメリットを提供して加入を推進しました。その結果、平成28年度に30代の部会未加入者が部会活動に理解を示して、新たに加入しました。

千葉市内の新規参入者は千葉市農政センターが主催する新規就農希望者研修を受講する例が多いため、研修カリキュラムとして人参部会の取組を紹介する座学と部会役員を訪問する視察を新たに組込



就農希望者向けに秋冬にんじんを説明

みました。また、就農前の1年間、市内の篤農家で実習を行うカリキュラムでは、秋冬にんじんに関心のある受講者に研修先として部会役員を選定して受入れが出来る体制を整えました。

イ 部会加入した新規参入者への支援体制

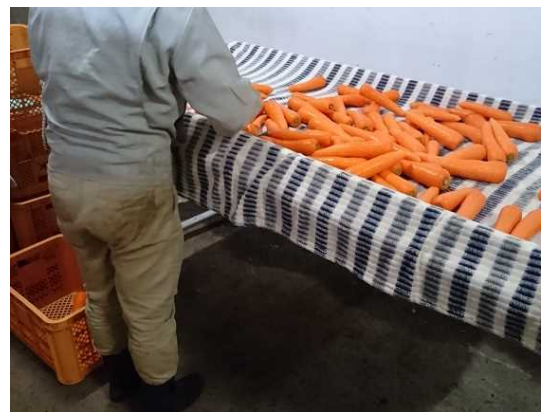
新たに部会加入した新規参入者に対して、千葉市農政センター、JA、農業事務所が連携して、参入者本人を交えて秋冬にんじん以外を含めた野菜の作付計画の作成支援（4月）、春夏作と秋冬作の終了後（9月と2月）に反省点と次年度に向けての課題を検討する相談会の場を設定しました。また、関係機関による現地での巡回指導と元研修先の部会役員が技術的な助言を行う体制を整えました。

（2）活動結果

平成30年度に30～40代の新規参入者3戸が部会活動に理解を示して、新たに加入しました。新規参入者は栽培講習会や査定会に積極的に参加しており、参入者のうち1名は部会の検査役員を務める等、部会員らと情報交換を行い、栽培技術の習得が図られました。新規加入者の秋冬にんじん栽培面積は平成28年度の170aから平成30年度に545aまで拡大しました。

特に新規参入者に対しては、相談会の場を設定したことで、経営上の悩みや目標を関係機関で共有して、必要な支援方を役割分担の元、決定できる体制が整いました。具体的には作業場の改善指導、収穫機や重量選別機の導入支援等を行いました。

新たに地域に溶け込んだ若手の加入で産地面積が維持されただけでなく、関係機関が一体となった担い手育成により若手自身の経営改善が軌道に乗りつつあります。



作業改善事例（作業台の高さの適正化）

4 今後の課題

新規参入者は労力不足により規模拡大に歯止めがかかってしまうため、雇用導入による拡大に向けて支援する必要があります。また、新規参入者が部会加入後に経営発展していくモデルを作成し千葉市農政センターの新規就農希望者研修で情報提供することで、さらなる担い手を確保します。さらに、中長期的に部会員の高齢化に伴い作付出来なくなる農地が予測されています。担い手に農地集積が円滑に進むよう関係機関と連携して方策を定め、産地振興を目指します。

5 担当者 千葉・習志野グループ

6 協力機関 千葉市農政センター、JA千葉みらい、JA全農ちば